

期 中 の 評 価 個 表

事業名	緑資源幹線林道事業	都道府県名	熊本県
事業実施地区名	菊池・人吉線	事業実施主体	独立行政法人緑資源機構
		事業計画期間	昭和50年度～平成30年度
事業の概要・目的	<p>緑資源幹線林道事業は、豊富な森林資源に恵まれた地域において、基幹的な林道を整備し、林業を中心とした地域振興を図ることを目的とする。</p> <p>菊池・人吉線は、熊本県菊池市を起点とし、熊本県人吉市を終点とする路線であり、6区間、104.2kmにおいて、林道の開設及び改良を実施する計画である。</p> <p>〔 菊池・大津区間 延長18.4km 幅員7.0m 〕 〔 大津区間 延長 4.0km 幅員7.0m 〕 〔 西原・御船区間 延長 8.6km 幅員7.0m 〕 〔 砥用・泉区間 延長27.9km 幅員5.0m 〕 〔 泉・五木区間 延長17.1km 幅員5.0m 〕 〔 五木・相良区間 延長28.3km 幅員7.0m 〕</p>		
① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>菊池・人吉線のうち、現在着手中の区間についての費用対効果分析を試行した結果は、以下のとおりである。</p> <p>① 大津区間 総便益(B) 1,912百万円 総費用(C) 1,482百万円 分析結果(B/C) 1.29</p> <p>② 砥用・泉区間 総便益(B) 9,555百万円 総費用(C) 7,703百万円 分析結果(B/C) 1.24</p> <p>③ 泉・五木区間 総便益(B) 18,596百万円 総費用(C) 15,048百万円 分析結果(B/C) 1.24</p>		

<p>② 森林・林業情勢、農山漁村の状況その他の社会経済情勢の変化</p>	<p>菊池・人吉線の関係市町村の森林面積は約18万haであり、私有林率は80%、人工林率は65%である。本路線周辺は、古くからの林業地帯で、伐期を迎える人工林も徐々に増加している。しかしながら、伐採後に適切な植栽が行われない伐採跡地が増加しつつある。こうした中、完成区間である五木・相良区間では、高密度路網が整備され、広葉樹の分収造林や列状間伐が行われるなど、森林整備が進められている。</p> <p>菊池・人吉線のうち、着手中区間である大津区間の受益地の森林面積は約300haであり、私有林率は93%、人工林率は79%である。本受益地においては、今後、更新、保育、間伐の施業面積及び素材生産量が増加する見込みである。</p> <p>砥用・泉区間の受益地の森林面積は約5千haであり、私有林率は35%、人工林率は52%である。本受益地においては、今後、更新、保育、間伐の施業面積が増加する見込みである。</p> <p>泉・五木区間の受益地の森林面積は約2千haであり、私有林率は55%、人工林率は59%である。本受益地においては、今後、間伐の施業面積及び素材生産量が増加する見込みである。</p> <p>菊池・人吉線の関係市町村の人口は約18万8千人であり、戸数は約6万3千戸、このうち林家は5千戸である。</p> <p>本路線の完成区間においては、沿線住民の日常的な買い物、通勤、通院に利用されているほか、台風災害時には迂回路としても利用された。</p> <p>大津区間、砥用・泉区間、泉・五木区間においては、地権者に特段の反対はない。また、平成17年度及び18年度の工事予定箇所について、保安林解除手続き、砂防予定地における許可手続き、自然公園に関する協議は完了している。</p> <p>大津区間、砥用・泉区間、泉・五木区間においては、切取等の工事終了後速やかに法面緑化工を実施している。</p> <p>砥用・泉区間及び泉・五木区間においては、希少猛禽類の飛翔等が確認されたことから、毎年モニタリング調査を実施し、工事実施時期に配慮する等の措置を講じている。</p> <p>砥用・泉区間においては、当初、幅員7.0mで計画されていたが、受益地の一部が、新たに九州中央山地国定公園、特定動物生息地保護林、森林生物遺伝資源保存林に指定され、環境に配慮した工種・工法の採用が必要となったこと、また、地形の急峻な本区間において、地形改変度を極力小さくし環境への配慮を図る観点から幅員を5.0mに変更したものである。その後、旧矢部町内の路線の一部で貴重動植物の生息・生育が確認されたことから、関係学会等の専門家からの要望や地元からの意見等を踏まえ、貴重動植物の保護の観点から、これらの生息・生育地を回避するようトンネル、橋梁を採用する路線計画に変更した。</p> <p>泉・五木区間においては、環境保全に配慮した線形となるよう路線計画を変更し、延長の短縮を図った。</p>										
<p>③ 事業の進捗状況</p>	<table border="0"> <tr> <td>菊池・人吉線の進捗率</td> <td>73%</td> </tr> <tr> <td>うち、現在着手中の区間の進捗率</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 大津区間</td> <td>75%</td> </tr> <tr> <td> 砥用・泉区間</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td> 泉・五木区間</td> <td>99%</td> </tr> </table> <p>大津区間、砥用・泉区間、泉・五木区間においては、周囲の景観と調和する木材等を使用した工法を採用することとしている。</p>	菊池・人吉線の進捗率	73%	うち、現在着手中の区間の進捗率		大津区間	75%	砥用・泉区間	3%	泉・五木区間	99%
菊池・人吉線の進捗率	73%										
うち、現在着手中の区間の進捗率											
大津区間	75%										
砥用・泉区間	3%										
泉・五木区間	99%										

④ 関連事業の整備状況	<p>菊池・人吉線の公道利用区間については、地域の交通ネットワークの形成のため、緑資源幹線林道の整備状況にあわせ、整備が進められている。</p> <p>菊池・人吉線は、林業地帯である山間部を縦断しており、路線沿線には多くの木材市場、製材工場が点在しているほか、乾シイタケ、生シイタケの生産も活発である。本路線が完成すれば、山間部における南北方向の林産物の流通が期待できる。大津区間周辺の生産材は主に福岡県や大分県に、砥用・泉区間及び泉・五木区間周辺の生産材は主に八代市、人吉市、熊本市方面に出荷、製材されており、これらの区間が完成すれば、区間沿線の生産材やキノコ原木の輸送路としての活用が期待できる。</p> <p>菊池・人吉線沿線は、阿蘇くじゅう国立公園、九州中央山地国定公園等の自然公園に指定されており、キャンプ場や森林公園など森林資源を活用した森林総合利用施設が点在しており、本路線を利用した入り込みが期待される。大津区間、砥用・泉区間、泉・五木区間周辺には、キャンプ場や町民の森、平家落人伝説の地など、森林総合利用施設や観光地が点在しており、これらの区間が完成すれば、利用者の増加が期待できる。</p>
⑤ 地元（受益者、地方公共団体等）の意向	<p>菊池・人吉線（大津区間、砥用・泉区間、泉・五木区間）に対しては、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 森林の適切な維持・管理、木材輸送などに必要な根幹的な路網としての役割 ② 森林レクリエーション施設の利用や森林ボランティア活動などによる都市と山村の交流促進の基盤としての役割 ③ 地域住民の通勤・通学路としての役割 ④ 災害時の避難路・迂回路としての役割 ⑤ 観光施設へのアクセス道としての役割 <p>などが期待できるとして、熊本県、大津町、美里町、山都町、泉村、五木村、水上村、受益地の代表等が、早期完成を要望している。</p> <p>また、砥用・泉区間については、森林の保全・整備のためには大規模な林道建設ではなく現道の整備を進めるべきとの意見や、林道建設にあたって周辺環境の保全に留意すべきとの意見がある。</p>
⑥ 事業コスト縮減等の可能性	<p>菊池・人吉線（大津区間、砥用・泉区間、泉・五木区間）においては、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 施工能力の高い32tブルドーザの積算への反映 ② 施工に複数年を要する長大橋梁工事等において複数年の契約を締結 ③ 構造物への二次製品の採用 ④ 従来より長いコンクリート側溝の採用 ⑤ 舗装材にアスファルト再生合材の採用 ⑥ 鋼橋桁部に耐候性鋼材の使用 ⑦ 切取法面に間伐材等を利用した丸太法面伏せ工の実施 <p>などの取組みにより、コスト縮減、工期の短縮、建設副産物の有効活用等を図ることとしている。</p>
⑦ 代替案の実現可能性	<p>該当なし</p>
第三者委員会の意見	<p>森林の有する多面的機能の発揮、林業・林産業の活動の見通し、地域振興への貢献度等を総合的検討した結果、事業を継続することが適当と考える。</p> <p>なお、泉・五木区間については、引き続き希少猛禽類のモニタリング調査に基づき、生息環境の保全に配慮して事業を実施することが適当と考える。</p> <p>また、砥用・泉区間については、引き続き特定動物生息地保護林内の貴重動植物の保全に努めるとともに、希少猛禽類のモニタリング調査に基づき、生息環境の保全に配慮して事業を実施することが適当と考える。</p>

評価結果及び実施方針	<ul style="list-style-type: none">・必要性 菊池・人吉線周辺は、豊富な森林資源を有し、徐々に成熟しつつあるものの、依然として間伐を必要とする林分が多く、伐採後の植栽が適切に行われていない箇所も見られること、また、熊本県等地元関係者からの早期完成の要望が高いことから、事業の必要性が認められる。・効率性 コスト縮減に努めているほか、費用対効果分析の結果、現在着手中の区間である大津区間、砥用・泉区間、泉・五木間は費用以上の効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。・有効性 森林・林業への寄与のほか、都市と山村の交流促進、地域住民の生活道、災害時の避難路、迂回路、観光地へのアクセス道としても機能することが期待されることから、事業の有効性が認められる。 ・事業の実施方針 現在着手中の区間である大津区間、砥用・泉区間、泉・五木区間については<u>継続</u>とする。 なお、泉・五木区間については、引き続き希少猛禽類のモニタリング調査に基づき、生息環境の保全に配慮して事業を実施する。 また、砥用・泉区間については、引き続き特定動物生息地保護林内の貴重動植物の保全に努めるとともに、希少猛禽類のモニタリング調査に基づき、生息環境の保全に配慮して事業を実施する。
------------	--